

# “まさにアナログ・ターンテーブルのようだ” CDとハイレゾを高度に再現する新世代プレーヤー

**BEST HiFi  
Components**

2015 SPRING

**Profile**！独自のベルトドライブ技術を採用した同社のCDプレーヤーが、ハイレゾ対応のUSB入力を装備した新世代仕様へと生まれ変わった。USB入力は最大PCM 32bit/384kHzやDSD128/5.6MHzのDoP再生に対応。この1台であらゆる音源を高音質で楽しめるようになった。アナログ時代の技術を継承しつつ、最新のハイレゾ再生も追求できる、C.E.C.ブランドでしか完成しえない唯一無二のプレーヤーがここに誕生した。

Hearing & Text by

**角田郁雄**

*Ikuo Tsunoda*

Photo by 田代法生

## C.E.C. CD5

USB入力付きCDプレーヤー



### Specifications

●再生可能ディスク：一般音楽CD、ファイナライズ済み音楽用CD-R/RW●スピンドル駆動方式：ベルトドライブ●CDスタビライザー：直径約70mm、質量約330g(真鍮製)●デジタルフィルター：FLAT/PULSE 切り替え (DSD入力再生時はFLATのみ)●周波数特性：20Hz~20kHz、±0.1dB (CD再生時)●SN比：105dB、1kHz/0dB●クロストーク：105dB、1kHz/0dB●THD：0.016%、1kHz/0dB●ヘッドフォン出力：6.3mm×1●電源：AC100V、50/60Hz●消費電力：17W●サイズ：約435W×335D×109Hmm (ボタン、端子、レッグ含む)●質量：約8.6kg (CDスタビライザーを含む)●取り扱い：(有)S-TEC

● 本機の概要に触れる  
唯一無二の存在である  
ベルトドライブの魅力

私は、ハイレゾを推進する一方で、CD再生にも力を入れている。その理由は簡単。ハイレゾアルバムは、まだCDの名演奏、名録音をカバーするに至っていないからだ。私は普段、CDトランスポーターを使うというのに、こだわっている。アナログ再生のようなイメージだからだ。CDプレーヤーも「ターンテーブル」のイメージが、プンプンするモデルが好きだ。こうしたことから、今回登場したCECの最新プレーヤー「CD5」に興味津々であった。世界的に見ても同社のアナログ・ターンテーブルのようなベルトドライブCDメカは唯一無二の存在だ。まず、その原理を説明しよう。読み取り精度を向上させるために、安定した回転を得るには、モーターから発生する振動と電磁ノイズが大敵となる。伝送ジッターの原因ともなる。ベルトドライブ方式は、重量級のCDスタビライザーと使うことにより、ターンテーブルの質量を上げ、高い慣性力(簡単に言えば、動きにくく、止まりにくいこと)により、滑らかに安定した回

転が得られる。その慣性力の効果により、モーターは小型化でき、CDの回転軸から離れた位置からベルトで干渉を避けて駆動できる。

ベルトは微細な振動の吸収もする。一般的なモーターの軸の延長がCD回転軸となる、ダイレクト・ドライブのCDメカで問題となる点を改善していることが特徴だ。その頂点を極めるCDトランスポーターは、同社の「TLO3・0」だ。本機「CD5」では、直径7cm、重さ330gのずっしりとしたCDスタビライザーを使用し、ユーザーが、いつでもベルトの状態が確認でき、交換も可能にしたことが特徴だ。

5・6MのDSD入力にも対応  
デジタルフィルターも選択できる

また、384kHz/32bit PCMと2・8/5・6MHz DSD対応のUSB入力を装備し、CDとハイレゾミュージックの両方が再生できることも大きな特徴になっている。内部には、ESS社の32bit型DAC、ES9018 K2Mが使用され、周波数特性に優れた「FLAT」または、高域で自然な減衰特性が得られる「PULSE」というデジタルフィルターモードで再生できる。また高

品位なヘッドフォンアンプも搭載する。

● 本機の音に触れる  
アナログ的な厚味のある音質  
実在感に溢れた演奏が聴ける

本機でCDを再生する時、ワクワクする。透明のスライドカバーを引き、CDをセットし、スタビライザーを載せて再生することに、一枚のCDをじっくりと聴くという充実感を憶えるからだ。その音は、実に開放的でCDに内包する倍音を引き立てていることが特徴だ。

聴き慣れたイザベル・ファウストのヴァイオリン・ソナタを再生すると、ホールトーンを鮮明にし、実在感に溢れた解像度の高い演奏が聴ける。フィルターを「PULSE」に切り換えると、音が中低域に、うまくバランスして、アナログ的な厚みが増す。CD再生で、ピアノシモに深み、美しさを感じさせるところも、本機の凄いなところ。これはベルトドライブの効果だと思ふ。停止しても慣性力が大きいから、しばらく回転しているままだにアナログ・ターンテーブルのようだ。

エネルギーギッシュで音数が多い  
USBのハイレゾ再生も魅力

USBのハイレゾ再生は、音数が多く、192kHz/24bitのBlue Noteのアルバムでは、プラスやシンバルで、鮮度の高い倍音を得られ、極太のドラムス、ベースが聴ける。DSDも素晴らしい。

しかったが、PCMのハイレゾも、エネルギーギッシュで、アナログに迫る音色で聴かせてくれる本機に感心するし、私はバランス出力の音が好きだ。使用にあたっては、アナログ・ターンテーブルのように、強固で、安定したラックに水平を保って使いたい。長く愛用できるモデルだ。

Details



CD5のリア部。デジタル入力はUSB2.0(PCM32bit/32~384kHz、DSD64/2.8224~DSD128/5.6448MHz)、同軸(24bit/32~192kHz)、TOS(24bit/32~192kHz)の3系統。デジタル出力は同軸とTOSが各1系統。アナログ出力はRCAとXLR(2番ホット)が各1系統ずつ装備されている



本機のベルトドライブCDメカ。初の試みとして、必要に応じてレコードプレーヤーのように自分でベルトの交換ができるようになった



真鍮製のCDスタビライザーは直径70mm、質量330g